

オーブントラカレ講座 トンボの目を持とう!

～これからの時代を生きていくために～

講師：永井清陽 先生

おでかけオーブントラカレ第一回の講師は、ヒッポのシニアフェロウの永井清陽さん。大田区蒲田駅前の区民ホールアブリコにて2/15(日)に開催されました。

永井先生は、元読売新聞の記者で、ローマ、パリ、ロンドンなどの支局長も務めた方。なんと全部で50カ国以上も取材をされてきたそうです。そんな永井先生が私たちに贈ってくださったのは、「トンボの目を持とう!」。単眼ではなく複眼で、多様性を持って世界を見て行こうというメッセージでした。そしてお話の最後の方では、ヒッポのやり方を褒めてくださったのが嬉しかったです。

東急地域の小学生以上のメンバーが約130名、地域外の参加者が32名、メンバーでない方の参加が15組（フォローの方、友だち含む）合計180名以上で聞かせていただきました!

準備段階では、メンバーみんなで自分にとっての「トンボの目」って何だろう?というおしゃべりの場を数回持ちましたが、それがとっても楽しかった!また、過去の先生のオーブントラカレでの講座のDVDを観る会も開きました。

準備を通して私たちが見つけたことは、日本はまだ international (入り込む、または中に受入れるという世界との関わり) にはなっていない。「国際化」を声高にうたっても、「国」の「際(きわ)」で重ならずに接しているに留まっている。でも、ヒッポにいて、いつの間にか相手に寄り添うこと、相手の考え方を尊重すること、理解しようとするのが、大人も子どもも出来るようになっていくな...ということでした。私たちの当たり前は、全然当たり前じゃない!とっても豊かな環境の中にいるんだな...

当日のプログラムは、1時間10分の先生のお話を中心に、多世代のメンバーの、交流体験から感じた「自分のトンボの目」を写真を見せながら話したり、ちび輪で感想をシェアしたりする時間も持ちました。

感想文より

【2年生女の子】

わからないことばもあったけど、わかったこともあります。
家が二つの国に分かれてたらおもしろいです。

【4年生女の子】

私も今年台湾に行くので、いろんな文化などをしてみたいです。
だけど、自分できめつけなくてちゃんと行ってきて、本当の台湾をしりたいです。

【5年生女の子】

イギリスでは、外国の人(永井先生)に道をたずねたということがすごいなと思いました。

【中1女子】

もしも先生が「国際」ではないことばで「International」を表すならどうなるかなと気になります。
「国際」=表面だけでその国のことを判断してしまうことだと考えました。

【高校生】

テレビで中国のニュースを見ると、中国に行きたくないと思ってしまいうけど、
ヒッポの交流で日本に来ている中国人はみんな親切で、
やっぱり私は偏見を持っていることが残念になる。いつか中国に行って中国を肌で感じたい。

【大学生】

「うち」と「そと」の感覚がもう少しゆるくなったら、
肌の色がちがう人達、宗教がちがう人達、みんな住んでいるのが当たり前な場所、
international なところになれるのかなと考えました。

【30代お父さん】

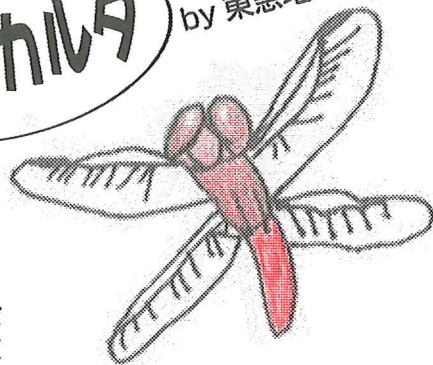
英語を話せるようになると世界中の多くの人とコミュニケーションがとれるようになる。
私はそれを国際人だと思っていたが、30年前の日本人と同じ発想だと知り、ショックを受けた。
国際人とは、相手の中に入っていくことができる人のことなのだ!

【50代女性】

私のトンボの目は、ヒッポにいてのことだと思います。
完璧な言語を習得するというより、目の前のひとりの人を理解しようとする気持ちが大切だと思います。

あとカルタ

by 東急地域



◀準備も楽しい♪(看板描き)

▼司会チーム&体験談スピーカー先生と記念撮影。



▲ちび輪タイム先生への質問いっぱい!



▲講座後の懇親会。感想をシェア。